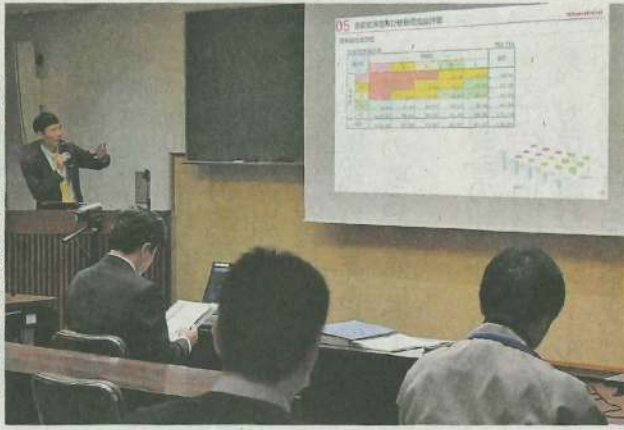


# 水道管更新AIで効率化

## 仙台市、検討結果を報告

仙台市水道局は13日、持続可能な水道管路の維持管理方法に関する検討結果の報告会を太白区の水道局大野田庁舎で開いた。職員約30人が人工知能(AI)を使って漏水リスクを評価し、効率的に更新作業を進める手法に理解を深めた。



AIを活用した管路の維持管理について理解を深めた報告会

検討した大手商社丸紅の担当者が

### 漏水リスク評価 5倍の精度で予測

説明。水道管の敷設時期や口径、材質、周辺土壌の性質など30項目以上のデータを管ごとに入力し、AIを活用して漏水事故の可能性を分析した結果、敷設時期を根拠とする従来手法に比べ、5倍の精度で予測できたと報告した。

水道管の老朽化の程度を踏まえた更新作業の優先度も公表。水道局管理の管路計約4590キロの2%に当たる約90キロは「更新が必要」と明らかにした。

丸紅環境インフラプロジェクト部の中井一孝シニアリーダー(39)は「市内の詳細なデータをAIで分析することで、より効率的な管路の更新が可能になる」と意義を強調した。

水道局は、今回の検討結果を2024年度に策定する中期経営計画(25〜29年度)に反映させる方針。資産管理戦略室の担当者は「漏水リスクを抑え、将来に負担を残さない管理に生かしたい」と話した。

## プロ人材の活用支援

### 仙台市中小企業の事例紹介

仙台市は13日、専門知識を持つプロフェッショナル人材を活用した中小企業支援事業の報告会を青葉区のシェアオフィス「エンスペース」で開いた。県内を中心に企業関係者約20人が、採用方法の見直しで人材の確保につなげた介護事業などのケヤキ福祉(太白区)の事例を学んだ。



採用について成果を報告する香味社長(左)と小口取締役

2023年度、長野県茅野市を拠点に採用支援を手がける「IKI&IKI(いきいき)」の小口正史取締役のサポートを受けた。登壇した小口氏は「社員

### 「宮城と協力し 中日関係改善」

中国総領事館が 仙台でセミナー

中国駐新潟総領事館は13日、日本との経済協力強化に向けたセミナーを仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で開いた。崔為磊総領事が講演し「宮城県は各界と協力し、中国と日本の関係改善と発展に貢献したい」と強調した。

崔氏は、管轄する4県(宮城、山形、福島、新潟)と中国との間で、宮城との貿易が最も活発と紹介。「建設的で安定した関係の構築が、両国に利益をもたらす」

が感じている自社の魅力アピールした方がいい」と助言したことを明かした。その結果、ケヤキ福祉はウェブ広告などから応募してきた6人の採用にこぎ着け、経費も10分の1に抑えられた。香味祐一郎社長は「採用のノウハウを身に付けられた」と利点を語つ

と述べ、協力関係を深める考えを示した。

崔氏は中国と日本が共に脱炭素化に向けて取り組んでいる点にも触れ「宮城の各企業と連携する機会を探りたい」と話した。デジタル分野の連携や、半導体分



経済協力の重要性を強調した崔総領事